

情報通信が支える次世代のITS 講演概要

タイトル: Web 技術を活用した携帯電話利用型情報収集・配信技術

講演団体: 株式会社 KDDI 総研

本年度(～2015年3月末)は、車の走行情報をWeb APIにより収集するシステムを開発し、その安定性等をタクシー100台に実装し評価した。加えて、来年度から開発・実証を行う「プローブデータによるトラヒック輻輳回避技術」、「プライバシー保護技術」及び「自動車とスマートフォンの接続技術」などについて基本設計を行った。

今回の発表では、Web APIによる情報収集システムとその実証評価結果を中心に報告する。

(研究開発の背景)

交通事故を防止するためには、危険予知と危険回避が重要であり、特に歩行者との事故を減らすためには、適度に余裕を持った事前の注意喚起が必要である。

危険な状況を予測するためには、過去の急ブレーキ発生状況、路面状態、道路線形、渋滞の状況や通行人の混雑状況、気象条件、運転者の状況など多種多様な情報が必要となる。さらには、特定のスポットにおける危険情報であるため、情報を配信する対象となる車や人、そして配信のタイミングについても考慮が必要である。

(本研究開発の優位性)

こうした情報を全ての道路・車両から収集し、車や人に適切に通知するということを考えると、広く一般に普及しているスマートフォンを利用して、走行車両の情報を収集・分析し、情報提供することが、有効かつ現実的な方法である。

さらに、現在、W3Cで検討されている自動車用Web APIを利用すれば、車からの情報収集が、車種やスマートフォンの機種、OSの違いに依らず取り扱え、早期展開・普及が期待できる。

以上の観点から、携帯電話ネットワークを利用したITS用Webプラットフォームを構築し、社会実装することを基本コンセプトとして、次世代ITSの情報収集・配信技術についての開発・実証を、2014年11月から開始し2017年3月まで実施する計画である。